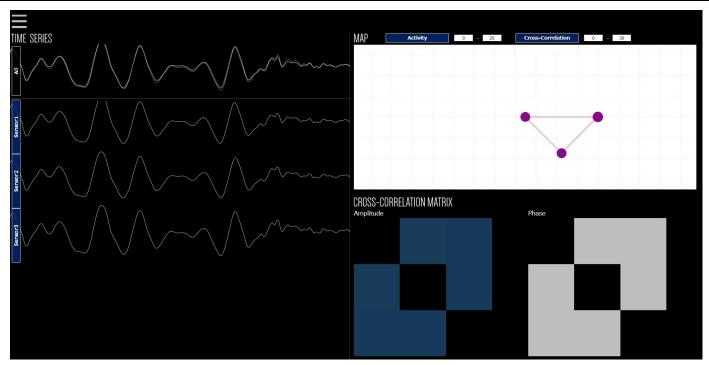
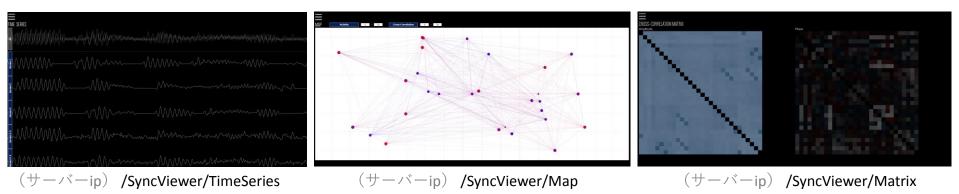
SyncViewer 説明資料

2018/12/30

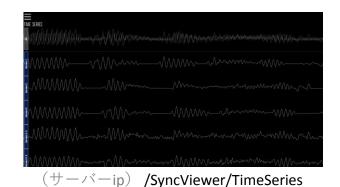
SyncViewer



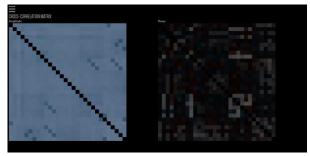
基本画面:(サーバーip)/SyncViewer



SyncViewer

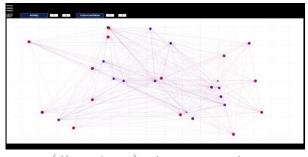


・各センサの加速度ノルム (活動度) を 時系列グラフとして表示



(サーバーip) /SyncViewer/Matrix

・各センサ間の同調の強度(どれくらい同調している動きか)や位相差(どれくらい動きに遅れがあるのか)を行列表示



(サーバーip) /SyncViewer/Map

・各センサの活動度をノードの大きさ、同調の強度 をエッジの太さ、動きの先行度合で着色したグラフ 表示

(サーバーip) /api/alltimeseries/<epoch time>/<time range> URI:

TYPE: GET

epoch time:

取得したい時刻をエポックミリ秒で指定

※現在時刻ジャストだとDBにデータが格納されていない可能性があるため 1秒程度過去の時間を指定した方が○

time range:

取得したいデータの範囲をミリ秒で指定

※表示の都合上現状は<epoch time>より過去<time range>分+1000msecのデータを取得

例:

```
{"results": [
              "epoch time": 1521701590210,
              "id": "37c64106a9b65e66",
              "times": [1521701590180, 1521701590190, 1521701590200],
              "type": "acc norm",
              "values": [-3.7638, -3.7516, -3.7413]
       },
              "epoch_time": 1521701590210,
              "id": "80124ad9e99d7a6c",
              "times": [1521701590180, 1521701590190, 1521701590200],
              "type": "acc norm",
              "values": [4.4782, 4.7231, 4.9288]
       },
]}
```

- ・各センサidと活動度の時系列 データ(values)が格納
- ・timesはエポックミリ秒

URI: (サーバーip) /api/correlations/<epoch_time>

TYPE: GET

epoch_time:

取得したい時刻をエポックミリ秒で指定

※現在時刻ジャストだとDBにデータが格納されていない可能性があるため 1秒程度過去の時間を指定した方が○

例:

```
"IDs": ["37c64106a9b65e66", "80124ad9e99d7a6c", "944f98bceafdf2e3"],
"nodePhase": [157.6071, -295.3914, 107.2753],
"data": {
        "37c64106a9b65e66": {
               "activity": 0.06605125037620148,
               "position": [1, 2],
               "sensorIndex": 0.
               "crosscorrelations": [
                               "amplitude": 7.7674,
                               "followerID": "80124ad9e99d7a6c",
                               "phase": 310,
                               "value": -5.4456
"time": 1521701589020
```

IDs:各センサID一覧
nodePhase:各センサの先行度合(+が先行)
data:各センサ間の同調情報
キーになるセンサIDが同調の先行者とした場合の、
activity:活動度
position:設定されたセンサの位置(x, y)
sensorIndex:ブラウザに表示する際の順番情報
crosscorrreations:他センサとの以下の同調情報
followerID:対象のセンサID

phase:最も同調の強度が高い位相差 amplitude:上記の位相差のときの同調の強度

value:位相差0の時の同調強度

簡易的な実装例

- ・各センサのactivityが動きの大きさを表すパラメータ →グループ内のactivity平均をセルフボールの明るさに対応 →より活発なグループのセルフボールが一目で確認可能
- ・各センサに対応するnodePhaseがリーダータイプ or フォロワータイプの指標に →nodePhaseの値によりセルフボールの色を変化 →誰が主体となって発言しているかを可視化できる可能性